

21世紀を迎える企業としての対応すべきキーワードとは何か。色々論議があると思うが私はこれを4つにしぼり込んでみた。

その1は国際化。すでに余りにも言われ続けている言葉であるが、真の国際化と言うのは相手の国の事を理解するだけでなく如何に自分の国の文化とか思想を相手に理解させるか、そしてこの異なる価値観にどのような共通点を見出すかという事である。単なる妥協ではお互いの尊敬もなく長続きしない。

その2は情報化である。情報の世界におけるハード、ソフトの進歩は全く素晴らしい。見方によってはジェームス・ワットの発明した蒸気機関が産業革命を引き起したと同様に、世界の産業はもとより人間のライフスタイルまで根本的に変える大きな変革といえる。特に流通、労働、金融といった周辺の部分に大きな影響を及ぼし、ボーダーレス化の進行は国家独立性をも脅かすものである。

その3は環境問題である。これは本質的に人間にとってやっかいなものである。社会主義が凋落した現在、資本主義を前提とした自由主義経済が世界を制覇しているのは、この考え方が結局人間の本能により近いからである。確かに人間の能力や努力に対応した結果が出る事は素晴らしい事であるが、人間の欲望は果しくなく地球にとって自然環境にとって協力的でない。それどころかネガティブの面が大きい。事業の成長、シェアの拡大とは言葉を変えていえば大量生産、大量消費、そして大量廃棄という過程のサイクルを如何に速めるかという事に外ならない。自由主義経済、市場原理主義と言うのは、環境にとっては根本的にアンチテーゼであると言わざるを得ない。自由主義経済の発展に最も大きな役割を演じた技術も同じ運命を背負っている。技術は飢えや疫病を追放し人類に大きな幸福をもたらした反面、大量の資源、大量のエネルギーを消費して新製品、新サービスを送り出した。人間の欲望は経済においても技術においても環境問題とは全く無関係の所にある事を理解し、この相反する人類の発展と環境保全の調和をどうとるかという極めて困難な問題をさけて通れない。

その4は人間そのものである。これからの時代は国家あつての国民、会社あつての社員ではなく、国民あつての国家、社員あつての会社でなくてはならない。即ち個人の生きがい働きのある人生を送れる社会でなければならない。然し人間の欲望と社会、国家、そして地球の未来には大きな矛盾を持っている。

どうこれを解決するのか、この問題について技術の果たす役割はどうか、21世紀に向ってのチャレンジの原点はこの辺にあると考える。サルトルの言った“現代人は多くの正反対をかかえて生きている。それが彼をして現代人たらしめている”という言葉は極めて重い。



会長

堀場 雅夫
医学博士

Masao HORIBA, M.D.
Chairman